

第 48 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミⅡ	チーム名	チーム寺ちゃん
タイトル	ブラック部活動		
テーマ群	g) その他		
メンバー			
研究計画内容	<p>2018 年 5 月に起きた日本大学アメフト部の悪質タックル事件は、大学スポーツにおける絶対的な上下関係と、隠ぺい体質に改めて目を向けさせた。日本大学の第三者委員会は、危険なタックルは内田監督と井上コーチの指示によるものと認定するとともに、大学関係者が選手に口封じをするなど、もみ消しをしたことを明らかにした。この事件を調査した学生競技連盟の規律委員会は、倫理観とスポーツマンシップを欠いた指導、外部に相談窓口がなく服従するほかない学生の窮状、それを放置する大学の責任の 3 つを指摘した。</p> <p>そして、この悪質反則問題により、改めて大学スポーツのあり方に注目が集まった。日本大学ではアメフト部だけでなく、8 月にはチアリーディング部においてパワハラがあり、9 月には水泳部の暴力事件が明らかになっている。他大学でも天理大学柔道部での下級生に対する暴力事件は記憶に新しい。</p> <p>スポーツ庁長官の鈴木大地氏は、「スポーツは重要な活動だという認識を強く持った上で、大学と競技団体、企業が連帯して、運動部活動の安全・安心を担保し、学習支援をするような、大学と運動部をつなぐ機関が必要だ」と述べている。運動部活動は教育活動の一環であり、学業との両立を重視することは当然である。</p> <p>なぜ部活動が学業を犠牲にして過熱化するのか、どのような対策が有効なのか。そして、甲南大学の運動部の現状はどうか。私たちは運動部の学生にアンケートを実施して実態を明らかにし、スポーツと学業で活躍するような部活動の指導者にインタビューを行う。そして、選手と指導者の関係性、部活動と勉強の両立について考え、学生が幸せになれる、大学と部活動の姿を考える。</p>		